

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	総合支援センター(学生活動支援機構)
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理
	理念・目的との適合性
	学術の進展や社会の要請との適合性
	(KG1)研究活動の状況
小項目要素	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2011年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生支援相談(カウンセリング)に指導助言を行なう教員3名(副長1名、センター委員2名)、キャンパス自立支援(障がい学生支援)に指導助言を行なう教員4名(副長1名、センター委員3名)を配置する	委員の配置状況 評価基準: A→5人 B→3～4人 C→1～2人 D→0人			A	A	A
2. 環境を配慮した面接室(自然採光、防音設備、プライバシー確保、適度な広さ<15㎡以上)に改善し合計4室確保する。	適切な環境の面接室数 評価基準: A→4室 B→3室 C→1室～2室 D→0室			D	D	D

2012年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

#### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2013年度学生支援相談室のカウンセラーに指導助言を行う教員は2名(総合支援センター長1名、総合支援センター委員1名)であり、予定の教員が1名不足した。一方キャンパス自立支援室のコーディネーターに指導助言を行う教員を1名増員し、神戸三田キャンパスから1名選出した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学生支援相談室の指導教員については2名でカウンセラーに対する指導助言を行ったが、緊急対応の必要なケースでは指導教員が常駐していないため、遅れるケースがあった。一方キャンパス自立支援室の指導教員を理工学部教員から選出したこともあり、実験実習等理工学部特有の支援の連携と相談の対応が強化された。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 常駐する教員(カウンセラー)を配置する必要があるため、新中期計画(後期)の実施計画で提案している。これにより、学生相談の対応をはじめ専門的立場で嘱託カウンセラーに対する指導・助言、情報発信、啓発活動等の実施が可能になり、困難を抱える学生対応がより充実する。	☆
		その他	☆

目標2	D	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2013年度(後期)新中期計画に学生活動支援機構として提案し、集中審議(2013年9月)に説明した結果、2014年1月の 大学評議会で実施計画として報告された。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学生支援相談室の面接室の不足について、(後期)新中期計画の説明を通じて学長室で理解を得ることができている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か (後期)新中期計画は今後、大学全体の諸施策の中で進められるため、審議の状況を睨みながら具体的場所等の提案を 行っていくことになる。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆